

No.12 気になる子どもに対する持続的なアプローチ

児童発達支援いっぽ 横田岳大 藤村琴音

1.はじめに

日々の療育の中では子どもの課題を整理することが難しい現状がある。その改善のために、今回は一人の子どもに焦点を当て、全援助者で定期的（4月～12月）にケース会議を行った。その中で子どもの様子や関わり方を共有し、新たな環境の構成や援助方法を繰り返し試した。

2.対象児について

- 年少男児：
・こども園に通いながら週2回いっぽを利用。
・おもちゃを取られると突き飛ばす。
・場面の切り替えが難しい。
- ・思い通りにならないと泣く、活動を拒む。
・周囲の環境に影響されやすい。
・関連のない話題で気持ちが切り替わりやすい。



3.取り組みと子どもの変化



4.まとめ

★援助者の変化

- ・援助に迷いがなくなった
- ・持続的で統一性のある援助ができた
- ・課題を意識して関わることができた
- ・子どもの変化（良い点悪い点）を共有しやすくなった

★子どもの変化

- ・切り替えがしやすくなった
- ・落ち着いて行動出来るようになった
- ・褒められる嬉しさや人と遊ぶ楽しさを知った
- ・自信が持てるようになった

今回の取り組みを行なったことで、1つ1つの行動に対してなぜその行動をしたのかということ全員で整理し、対策を検討、実践することが出来た。これにより援助者の関わり方が変わり、子どもにも大きく変化が見られた。このことから

●援助者全員が同じ援助方法をする ●**子どもの変化に的確に対応** ●**継続して援助**することの大切さを再認識することが出来た。また、援助方法に悩みながら関わっていた各援助者の負担の軽減に繋がっていたこともわかった。今回は一人の子どもを対象に行ったが、どの子どもに対しても同じように課題やニーズを整理して関わることでその子どもの本来の力をより引き出すことが出来ると思う。

★今後の課題

今後は他の子どもに対してもどのように行なっていくかが課題となる。療育後に行なっている日々の振り返りの際に取り組み案が出たものの、その日の子どもの様子を共有するだけで時間が掛かる現状がある。一日ごとにどの子どもの課題・ニーズに対して話し合うか整理してスケジュールするなど、如何にして日々の療育の中に組み込み持続的にアプローチしていくかを検討していく必要がある。